

(運営状況)

1	利用者に対する指定計画相談支援の提供は別法人が行っているか。(別法人の事業所を活用していない場合は、その理由)	・相談支援員については、全員外部の相談支援事業所で対応してもらっている。
2	相談支援事業者や他のサービス事業所との連携を行っているか。(別法人の事業所を活用していない場合は、その理由)	・相談員さんによっては、利用者のグループホームでの生活状況を確認するために、度々足を運んでくださる方もいて、利用者の状況等の情報交換は、密に出来ている。 ・相談支援員さんに集まってもらって、3年間の利用者の状況等について、3月に報告会を実施する予定にしている。
3	GH内でどのような日中サービスを提供しているか。また、他の日中活動サービスの利用を妨げていないか。	・平日の日中は、全員が生活介護事業所を利用している。 ・体調不良等で日中をグループホームで過ごす場合には、看護師や生活支援員が対応している。 ・土日の余暇は、ハイキングや屋上でのバーベキュー大会などの行事を行っている。 ・今年度は、毎月1回、行事を行い地域の方や他の事業所の職員、家族との交流を行った。 ・個別の買い物や、理容・美容院などへの付き添いも行っている。
4	他の外部サービスを利用できているか。また、利用者の外部サービスに対するニーズを把握できているか。	・利用者の方全員が、グループホーム利用前の日中のサービス利用を継続しており、日中活動では、半数の方が他の事業所の日中サービスを利用している。 ・NPOこだまの生活介護を利用していた方も、隣接の生活介護事業所ではなく、車で15分の場所に新しく開設した生活介護事業所を利用しており、通勤して活動することで、生活へのメリハリがついているように思う。 ・家族の方や担当の相談支援員さんと相談しながら利用者のサービスニーズを把握している。
5	実習生やボランティアを受入れているか。	・毎年、市内の保育系の短大から1年生2年生の単位実習生を10名前後受け入れている。実習中は、職員と同じ動きをしてもらいながら、障がい者の方たちの支援について学んでもらっている。実習を受けた卒業生の就職に繋がるケースもある。 ・企業からの研修生も、年に1~2名の受け入れをしており、研修後もNPOこだまの応援団になってくれて、イベントにも参加してくれている。
6	家族や地域住民との交流の機会が確保されているか。(地域との関係が希薄にならないための取組)	・家族の方のグループホームへの出入りは自由に出来るようになっており、家族の方の都合に合わせて、衣服の整理や交換等を行ってもらっている。土日に定期的に来られる保護者の方もあり、一緒に散歩をしたりドライブに同行されたりして、職員と交流をしてもらっている。 ・5月のこいのぼり祭りに、自治会の役員さん達が参加され地域の方と交流をしている。 ・そのほかにも地域の方との交流は、宍道湖に流れる山居川の土手の草刈りをして地域の景観を守る活動をしており、喜ばれている。

7	充実した地域生活を送るため、外出や余暇活動等の支援をしているか。	・個人で使う日用品(歯磨き、シャンプー等)は、個人購入をしており、休日に近くのスーパー等へ、世話人さんと購入に行っている。 ・美容院、美容院についても、休日を利用して、行きつけのお店や、近くの理髪店などを利用している。(全員一斉行くとか、グループホームに来てもらってなどの対応はしていない) ・余暇支援については、移動支援や行動援護などのサービスを使って、ヘルパーと出掛ける対応をしている。体力づくりの散歩や、バスや電車に乗って、出かけるなど、利用者の方が楽しめる活動をしてもらっている。
8	日中・土日を含めた常時の支援体制が確保されているか。	・平日の日中は全員が生活介護事業所を利用している。 ・朝7時～10時は、世話人・生活支援員が3名体制、日中は、世話人が、1名体制、昼3時～夜8時まで、世話人・生活支援員が4名体制で支援を行っている。夜間8時から翌朝8時まで、2名の泊り職員が対応している。 ・土日の日中は、帰省される方もいるため世話人・生活支援員が3名体制で支援にあたっている。
9	地域で生活する障害者を積極的に受け入れているか。	・見学の方は多く、利用の希望があるが、定員が一杯のため、現在は、受け入れはできていない。そのため、現在10床の増築をしていく計画を進めている。 ・NPOこだまの方針として、様々な事業者により、市内に特色のあるグループホームがたくさん開設されることを望んでいる。そのためにグループホームの開設や運営のノウハウを提供しており、多くの事業所の方が見学に来られている。
10	災害時における、利用者への安全対策(マニュアル作成等)を講じているか。	・マニュアルは策定中であるが、消防計画は、消防署に提出済み。また、建物の非常設備の定期点検は実施済みである。 ・今年度は、昼間と夜間(夕方)について、避難訓練を実施した。
11	体調急変等への支援体制が確保されているか。迅速に対応したか。また、日々の利用者の健康管理をしっかりと行っているか。	・その日の担当者から、管理者と看護師に連絡がはいり、看護師の指示を受けて、担当医や保護者等への連絡や通院等を行っている。 ・車椅子利用者の方が、朝方嘔吐した時があり、直ぐに看護師に連絡し対応した。その後、家族の方にも連絡をし、家族に付き添われ、主治医を受診した。 ・日々の健康観察は、朝、夕の検温と健康観察を行い記録をしている。利用者で必要がある方は、血圧測定も行っている。
12	利用者の嗜好を考慮した献立を基本とし、それぞれの心身の状況に応じた食事提供・支援しているか。	・障がい者支援施設や高齢者施設で、長年調理を担当した、栄養士・調理師資格者が調理を行っており、利用者の状態に応じた食事を提供している。 ・夕方の調理をしている場面では、カウンターの席に利用者の方が座って、台所からの調理の匂いや、調理師さんとの会話を楽しんでいる。 ・利用者の食べたいものや、調理の感想を聞いて献立に反映させている。
13	緊急・一時的な支援等の受入に対応しているか。	・遠方の家族介護のために帰省の必要がある家庭の方などを中心に、現在7名の方と利用契約をしている。 ・ショートステイの利用者は、7名であり、昨年秋頃より、土日を中心に50%ぐらいの利用率になっている。 ・昨年、保護者の方の病気療養のため、平日ショートステイを利用していた方は、グループホームへの入居が決まった。ショートステイでの生活の体験がありスムーズな入居に繋がった。

14	体験的利用の要望に対応しているか。	・空き室がないため、体験的な利用は、行っていない。
15	支援の質の確保に努めているか。(研修等)	・利用者全員に、個別対応の支援の手順書及び記録用紙を作成して、対応しているため、日々の対応は、統一されており、質の確保ができています。 ・職員会やグループホームのミーティングを通じて注意点や大切にすることなどの確認を行っている。 ・5月・・こだまの職員研修(倫理綱領・行動規範、こだま接遇マニュアル) ・8月・・保護者との懇談会(昨年度の報告) ・12月・・虐待防止研修会
16	利用者の金銭管理については、本人同意の上、帳簿等により適切に管理されているか。また、判断能力が著しく低い利用者については、成年後見制度の利用等の支援を行っているか。	・金銭出納簿をつけ管理をしている。また、保護者の方にも定期的に確認をしてもらっている。 ・現在は、保護者の方が責任を持って対応等をしてくださっているため、成年後見制度を使ってはいないが、今後、状況の変化にあわせて、成年後見制度について情報の提供を行うとともに利用についても検討していく。
17	利用者のプライバシーに配慮した支援となっているか。(個人情報の管理、複数の選択肢の提供、自己決定・家族の同意等)	・家族の方は、施設に自由な出入りをしてもらっており、利用者の方の状況については、常に報告している。 ・建物内に、個人情報の分かるものは掲示しないようにしており、外部の人の目に触れるようなことはない状況にある。 ・室内に入る際の声掛け、ノックなどは、徹底している。 ・利用者への声かけについても、「どうですか」「これでいいですか」といった言葉掛けをしており、利用者の方の意志や気持ちを確認しながらの支援を心がけている。
18	虐待等の権利侵害の防止、発生時の対応は適切か。	・これまで、虐待等を疑う事例は発生していない。 ・NPOこだまの倫理綱領、サービスにあたっての接遇マニュアル等を職員に配布し研鑽してもらっている。 ・密室とならないように、職員配置や勤務形態を考慮している。保護者の方の自由な出入りを行う事で、虐待等の権利侵害の防止効果もあると思っている。
19	報告/評価対象年度中において、退去理由の確認及び入居時に適切な判定(流れ)が行われているか。	・入居時は、グループホームこだまの、利用にあたっての基準をつくり、適正な判定をおこなっている。 ・退去時は、利用者や家族の方の話を傾聴し、退所後の生活や過ごし方等について、相談支援員さんと一緒になって相談、助言を行っている。

20	協議会からの要望・助言にはどのように対応したか(する予定か)	前回の助言 ①レスパイト利用に偏った受け入れにならないように、緊急一時的な短期入所の受け入れを積極的に行うこと。 ・NPOこだまの短期入所の方針は、これまでの「いざという時には利用者の方も力を発揮されます」との経験から、基本的には、体験的な利用は受けていない。緊急性の高い方については、適宜、優先して受け入れを行っている。 ②地域に開かれた事業運営に努め、地域とのつながりや交流ができるよう具体的な活動の検討及び実施をする事。 ・地域の方とは、良好な関係にあり、グループホームの一角をゴミステーションとして、開放している。また、グループホーム前の道路の草刈り等も積極的に行っている。今後は、山居川の土手に菜の花やコスモスの種をまき、秋には、コスモス祭りを開催したいと考えている。自治会の方とも協力して、花の咲きほこる西嫁島にしていきたいと考えている。 ・今年度、屋上に防災用の備品・備蓄倉庫を設置した。災害発生時には、地域の方の避難所として、解放したいと考えており、備蓄品も補充していく計画である。 ③高齢化、重度化、医療ケア等多様なニーズへの対応を見据え、支援や運営のあり方を検討していく。 ・一昨年より今後のNPOこだまの事業展開について、検討している。NPOこだまの利用を希望する方は、重度障がい者の方や、医療的ケアが必要な方達であるとの認識をしており、必要な方達が安心して、日中活動できる場として、重度障がい者の方や、医療的ケアが必要な方達を受け入れられる日中サービス支援型のグループホームの整備をしていく計画を立てた。現在、令和7年度の施設整備補助金の申請を行っているところである。 ・NPOこだまは、今後も重度障がい者や医療的ケアが必要な方が、地域で生活できる体制づくりに向けて事業展開をしていく方向である。
21	その他①事業所で独自に取り組んでいる事	
22	その他②要望や助言に対応しているか。	・保護者の方からの要望については、その都度検討して、迅速に対応している。

(記載要領)
各実施状況を具体的に記載してください